

立山

tateyama

第93号 2012年1月28日 冬号

- 二年間を振り返って 1.2
- 3.11東日本大震災 災害ボランティア活動 3
- 測量・図面講習会 4
- 2011年技能奉仕活動 5.6
- 編集後記 7

二年間を振り返つて

富山県造園業組合連合会
青年部 第18代青年部長

今井 浩司



新年明けましておめでとうございます。ご機嫌いかがでしょうか? 今井でございます。平素より青年部活動にご協力頂きありがとうございます。皆さんのおかげをもちまして、昨年の青年部活動も無事終え、諸行事も盛況であったことに厚く御礼申し上げます。

さて、おかげさまをもちまして、私の二年間の青年部長の職も終わろうとしています。長いような短いような、厚いような薄いような、太いような細いような二年間でした。色々な考えを持つて、村本さんから受け継いだ青年部長でしたが、振り返ってみると、一体何がやりたかったんだろうと思うことも多々あり、役員の皆さん方には、日頃の業務の忙しいなか、青年部活動に奔走させたことは大変申し訳なく思っております。

私が部長を引き受けたのは二つの理由がありました。一つはこの造園業界を少しでも良くしようと思ったことです。若い造園人による魅力をもつてもらい、日々楽しく仕事に励んでもらいたい。その手段として青年部を活用してもらいたいと思いました。講習会による技能技術の習得は造園人としての財産になるはずです。共に酒を酌み交わし、同じ志を持つた仲間達は人としての財産になるはずです。そういうものをこの青年部で皆さんに得てもらいたいという思いがありました。若い我々の世代がいきいきと仕事をすればこの業界は内から見ても外から見ても、もっと良くなると思います。

そして部長を引き受けたもう一つの理由：村本さんから、今井さん次頼むちや“と言われて、断る自分になりたくなかつたからです。

つまり愛情：じやなくて友情です。私は人に恵まれました。この青年部で尊敬できる先輩後輩に会えました。力にはなれないけど一緒に泣いたり笑つたり怒つたりできる仲間に会えました。そういう人たちのお願いを断る人間にはなりたくないんです。だからむさん“のお願いもすぐに返事しました。一生付き合える仲間に出会えたことは大きな宝です。

青年部長をさせていただき、とてもよかつたです。これから何年もある造園人としての人生では通過点にすぎませんが、大きな大きな二年間でした。この広報誌が皆さんに届く頃には、新しい青年部長が誕生していることと思いますが、その新部長にも二年後には、部長をやつてよかつた。と思ってもらいたいものです。

最後に：昨今、この造園業界は、土木業者が樹木を植え、解体業者が庭園を造る残念な状況となっています。いつからこうなつたんでしょうか？私達に出来ることはたくさんあるはずです。しつかりとした技術を持ち、はつきりと意思表示できる知識をもつていれば、強い技術集団になれるはずです。我々青年部がこのことをしっかりと念頭においておけば、色んな活動の方向性が見えてくるのではないかでしょう。次の部長さんに期待をし、少しプレッシャーを掛けておきたいと思います。

相変わらずの乱文となりましたが、二年間のお付き合い本当にありがとうございました。

言葉では表せないくらいの感謝の気持ちでいっぱいです。本当に本当に皆さんありがとうございました。

今後もこの青年部にどうかご協力をお願ひいたします。／柴崎くん原稿遅れてごめんなさい。／完

3.11

東日本大震災

災害ボランティア活動

富山西部支部 柴崎 英樹



平成23年3月11日、午後2時46分、三陸沖

を震源地とするマグニチュード9.0の日本観測史上最大の地震が起きた。人間の想像力をはるかに超えた自然災害。仙台空港の浸水の様子や他の地域で車が流されていく映像を見た時、ここが日本であることを疑つた。



それから7カ月、それまでは義援金等を送ることでしか協

力出来なかつたが、青年部139回幹事において瓦礫撤去等ボランティア作業（NPO法人ロシナンテスさんが実施）に協力することとなり、富山県支部から4人が参加することとなつた。

10月8日、富山県を出発した。宮城県に着くころには日が暮れていた。地元青年部（宮城县青年部）と連絡を取り、数名の方と会えることになり、夕食と一緒に頂いた。一緒にした宮城

県青年部にも被災したかたがおられ、当時の様子を直に聞かせていただいた。地震があつた直後は現場に出ておられ、数時間後事務所は1.5m位浸水、ライフラインは断たれ、全く連絡が取れない、身動きが取れない、恐怖と不安との闘い。情報が全く入つてこなく、夜も家族でろうそく1本で過ごしたことなど、現実では考えられない体験を聞かせていただいた。なかでも子供たちの心身の状況を紛らわすためにトランプをしたことなどは同世代の親として胸を打たれた。



復興に向けて、明るく前向きで話してくれる宮城県青年部員の芯の強さと復興への熱い想いを感じた。

10月9日、早朝より宮城県亘理郡山元町に向かい、近づくにつれ現実逃避し

たくなる光景が辺りを覆っていく。集合場所の山元町役場には多くのボランティアの方がおられ、現場常駐スタッフ京都造園連清水さんの指示のもと、作業場所を振り分けられた。一般の方々との協同作業となるため、自己紹介を行つた。東京都、埼玉県等各地から参加されておられ、親子での参加もあり、少しでも協力出来ればとの思いでの協力会だつた。各団体にボランティア依頼書が配布され、それをもとに各所の作業を行う。今回は造園業に携わっていると事前に連絡してあつたため、本業である草刈・樹木の剪定、伐採の作業内容であつた。作業場所に分かれ、被災された依頼人山本さんからお話を聞き、塩害樹木の樹木剪定と伐採、伐根作業を開始した。すべてが人力作業であつたため、伐根については機械のありがたさを知つた。汗だくになりながら、ふと隣の家屋の壁を見ると、浸水した

測量・図面講習会

富山中部支部 盛田 武志

平成23年10月29日(土)・30日(日)、技能推進部では、富山県技術専門学院において、平板測量の講習会を北陸ランドスケープ代表嶋倉雅人先生のもと行いました。平板測量の長所と言えば、現地の地形を対象

としながら、直接、紙上に図面化していくため必要な測量を忘れることなく、また、測定に誤りがあればすぐに発見出来、図面の正確さを確かめながら、作業できる点です。

短所としては見通しのきかない場所では効力が発揮できず、外業が多くため天候の条件に大きく左右され、また精密性に欠けるところがあります。

水のラインが自分の胸の高さぐらいにあった。山本さんの話によるとそこまで浸水したこと。あらためて津波の恐ろしさを痛感した。休憩時には山本さんから差し入れを頂きながら、体験

された当時の状況などをお話してくださった。「なんとかまたここに住みたい。私の家はここしかない」という思いを聞き、少しでも力になりた

いと必死にスコップを振った。午前中に作業は終わり、山本さんも大変喜んでおられました。NPO法人ロシナンテスさんのご厚意により、昼食を頂き、翌日所要があつたため、富山に帰った。

帰る前に、今まで報道による写真や映像でしか分からなかつた、特に被害の大きかつた場所に自分の足で立つてみた。またく声が出なかつた。ただ、呆然と辺りを見渡すだけで、その光景を自分の脳裏に焼き付けてきた。今回、自分の足で歩き、見て、聞いて、考えたことを多くの人に伝え、支援の輪を広げていきたい。是非、機会があれば継続して参加したい。



二日間にわたって行われた講習
初日は天候にも恵まれ、作業はスムーズに運びましたが、二日目は天候が崩れ少し雨が降り出しましたが、作業室に入り、前日に作業した測量をもとに、図面を起こす作業を行いました。

当連合会より、宗景理事長、中田副理事長、古崎広報委員長に励ましを頂き、ご厚意に感謝致します。
両日とも出席される人数が少なかつたため、次回は多くの青年部員が講習会に参加していただくよう声をかけていきたいと思います。最後に福田園の橋本全国部長、タイヤキごつちやんでした！



23年度新川支部 技能奉仕活動を終えて

新川支部 大村 充



今年度の新川支部技能奉仕活動は10月1日(土)の午後より魚津市の新川文化ホールにて行われました。当時は天候にも恵まれ、全員参加の7名にてカシやマテバシイ等の高木の整枝剪定を行いました。対象樹木は10年近く放置されており樹形も相當に乱れていきました。しかし、高所作業車やチエーンソー等を駆使し、また日頃培った技術を存分に発揮して作業に取り組んだ結果、3時間程度でしたが綺麗な仕上がりとなりました。

今回の技能奉仕では全員怪我も無く、また新川文化ホールの館長さんからは、「綺麗になり非常に助かりました。また来年も是非お願いします。」と感謝のお言葉を頂きました。



技能奉仕活動を通してこれからも地域へ貢献できる造園青年部であります。

2011年

技能奉仕活動



10月22日(土)、富山中部支部では、ルンビニ園にて技能奉仕活動を行いました。私は、青年部に入つてから、毎年この技能奉仕に参加させて頂いています。

作業中は、先輩方の剪定技術を間近で見させて頂き、多くの事を学べるとても貴重な時間だと思いま

す。これからも、技術の向上を目指して、努力していきたいと思います。そして、身に付けた事を来年のこの行事でも活かせるよう、頑張りたいです。

技能奉仕

富山中部支部 成伯 正仁



技能奉仕に参加して ♪2011♪

高岡支部 広嶋 孝之



9月25日(日)、残暑の続く秋晴れのもと、高岡・砺波・氷見のメンバーが技能奉仕の一環としてボランティア活動に参加しました。

場所は砺波市の老人ホームで、内容はシユロの葉バッタやストロークエビの製作でした。



やご年配者の優しい笑顔に癒される一日になりました。

このようなボランティア活動に参加させてもらい、とても有意義な一日になりました。来年の技能奉仕にも積極的に参加していきたいと思います。



2011年 技能奉仕活動

技能奉仕活動

小矢部支部 砂土居 嘉泰

7月14日(木)、小矢部市の松沢慰靈碑と松沢保育所にて技能奉仕活動を行いました。ここ最近は決まってこの場所で行っています。

朝、駐車場へ集合し、道具・養生などを準備し、いざ作業開始。支部長の私が何も言わなくても、支部のみんなは各自、黙々と剪定作業を行います。心の中で”みんなすごいなあ”

と思いながら、自分も負けじと頑張りました。技術はまだまだですが、1回1回心を込めて、且つスピード的な作業を心がけました。



休憩時には保育所の先生方がドリンクの差し入れを頂き、ライバーの近況の話に花が咲きました。

作業終了後、園長先生に挨拶へ行

くと笑顔で、「お疲れ様、いつもありがとうございます」と、お礼を言われました。この一言で疲れも吹き飛び、また来年も頑張ろう、と思えるのです。



は得意の!シユロの葉バッタやストロークエビ作りを教えてきました。結構盛況がよく、忙しくてあつという間に時間が過ぎ、フェスティバル終了となりました。子供たちのはじける笑顔

並んでおり、大勢の家族連れや地元の子供たちが来場していました。

そんな中、我々青年部のメンバーは得意の!シユロの葉バッタやストロークエビ作りを教えてきました。結構盛況がよく、忙しくてあつという間に時間が過ぎ、フェスティバル終了となりました。子供たちのはじける笑顔

編集後記

2011年は辛い出来事の多い年でしたが、そんな時でも元気に活躍する青年部を「立山」を通じて紹介できることを大変うれしく思います。広報部として青年部の魅力を十分に伝えきれない部分もありましたが、発刊にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

広報部一同